

「付録」根府川の『青年会合宿舎日記帳』（鹿島踊閔連箇所抜粋）

七月拾三日水曜日 晴曇

起床五時

昭和二（一九二七）年

六月廿五日土曜日 曇晴

起床五時

（前略）

祭の總集会をも兼ねて開いた

諒暗中でもありして遠慮すべきでもあ

り又世間の不況に鑑みて酒肴と云ふ

事は一切止めにして十四日に会有の杉林

の下刈ををし十五日に前半期の決算及

役員の改選をする事とし十六日は村の方

もの都合に依り休む者あれば休む事

にし十二時半閉会す

就床一時

七月四日 月曜日 晴天

起床五時

（前略）

夜は中老の集会があつた祭りの事で色々

議してゐた 十時半頃終えて歸つた

（後略）

（前略）

小頭下は祭りの集会をした一時半

にかえる 就床一時四十分

七月十四日木曜日 晴天

起床四時半

今日は祭典のよみやである例年の通り青年会総

出をして会共有林の下刈をする事になってゐる

会場下に五時集合辨当持参で山に登つた

本年新植分を先ず刈り終え大きい方の杉林

を半分ばかり刈つた 非常な暑さにもかゝ

わらず会員一生懸命働らき三時頃山

から下つた

晝休みに山で臨時総会を開き 祭りの事に付

き協議した 先日の総会で祭典は十五日の当日

に限り 決算及役員の改選すすま志 酒宴は一切

廃すると云ふ事になってゐたか村の方や中老の方

の様子を見るに 酒も出し相当酒宴もやるや

うなので会としても之と共に歩調をあわせて十

五日に午前決算し午後御みきとして酒宴

を開く事に決した所か山から下つてみれば

寺山様には御輿か出てゐるし夜中老より十五日におさめの鹿嶋を踊ってもらいたいとの申込があつたけれ共 山で決めた通り諒暗中でもあるしすべてをつゝしむと云ふ事でそれは出来ぬと返答をしたが再三の申込みにならぬとする事も出来ず遂に又総会を開くやうになつた 夜の十二時頃開会し先ず鹿嶋を踊るかどうかと云ふ事を協議した 所かさつ急の事でもあるし 山で決めた様な訳でも支度か間にあわぬと云ふので止める方か良いと云ふ人が多かつたが中老士より昔からの御流でお宮に鹿嶋みこしが出れば 必ず鹿嶋をやらなければならぬ様になつてゐるので是非曲げても御願ひするといふのでそれではやらうと決めたそれで明日に集会時間は午前十一時より決算し終え次第酒宴をしそれから鹿嶋を踊るやうになつて二時散会会場の者は鹿嶋の支度をする三時頃青年会と中老を年寄連と米神のねこそぎに肴をもらいにいった

就床二時半

七月十五日 金曜日 晴天

起床五時

今日は当日だ 小若い士は朝から酒宴の支度に取りかゝつた 米神からもらつた肴をこしらえるやら竹の子をこしらえるやら大いそがし進上ノ士は鹿嶋の支度をした

集合は十一時 先ず支部長副支部長

顧問消防小頭の挨拶あり次に決算

の報告、肥料部青年会 林の順で

次に役員選舉先ず肥料部から始め新

任幹事は鈴木国松廣井金十郎理事廣井

崑朝か当選した 林は廣井甚太郎か

監督を止め 内田 三か監督に就任し

廣井金十郎か人夫頭になる事になつた

進級は岩本丑、古沢次郎か進上ノ士に

進級す

雑題で片浦村有林の総出にもう一日出る事に

なりそれから無期限で総出をする事にし其の

収益の分配率は会の要求にどの様に應ずる

といふ條件ついで付で又会有の竹林のわりぐりを

江之浦の人が賣ってもらいたいといふので

それは役員に一任し有利な条件であれば

賣ると云ふ事にした又 〇のの発表あり

来年の正月に総出で会有の杉林の枝打ち

をする事に決した

酒宴は盛大であつた酒は少なくとも会員は

元気である大いに飲んだ五時に開会し

鹿嶋を踊つた会場の上で一回それから通常

会員は練りながら宮迫行き宮の前でおさ

めの鹿嶋を踊る 中老に礼に行き年寄

に礼をし一時散会す

夜はちはらいとして会場で飲んだ

九時頃から下の耕地整理の事ム所で肥料部の引

渡しをした 十時に終

皆んな疲れたのでよく寝た

就床十二時

七月十六日 土曜日 晴天

起床六時

今日も皆んなお疲れでゆっくり寝た 七時頃迄

寝てゐるものもあつた年寄はまだお宮で

酒を飲んでゐる

(後略)

七月十七日 日曜日 晴天

起床五時

晴天で暑い事つたら祭りのくたびれ

休みでなく仕事はできない

(後略)

昭和三(一九二八)年

六月十六日 土曜日 雨

起床 八時半

(前略)

本晩 惣大尔祭尔付いて村乃議員乃状態は如何

と云ふ事を青年会より使者行つ多 其之返事は

村の方では別尔議員集会も未多し奈い可村議の

結果本年は御神輿は絶体^(マ)尔出さぬとほぐ決定

して居る・・・・・・と乃返事であつ多

就床 十一時

六月二十三日 土曜日 天気

起床 六時

(前略)

今晚 祭乃揃乃事尔付いて■合

宿舎長尔辯護尔立つて戴久事

尔 下乃者より持ち出し多

(後略)

六月二十四日 日曜日 曇り

起床 五時五分

(前略)

今晚会場内では 盛ん尔揃之事尔付いて
議す処あつ多

(後略)

六月二十五日 月曜日 好天気

起床 五時

(前略)

今晚明二十六日 講話会並尔祭乃集會を
布れらせ多

(後略)

六月二十六日 火曜日 雨

起床 五時四十分

(前略) 今晚 七時半頃より講話会及

祭乃總集會可あつ多 今晚例尔無く寄可良

かつ多 而し講話会はぬき尔志て 總集會尔と

事講を進め多 七月六日例尔依り

青年乃山之下刈尔行久事尔決志多

尚本年は 村乃状態尔依りて居祭りと

する事 十四日可寄宮 十五日可當日……

十六日可勘定日と決し多

尚揃之問題を通常會員より出し多

可支部長並尔副支部長可相手尔せず

此乃件は通過せず一時保留する事尔し多

而し通常會員は尚も屈せず猛烈尔

運動し多 為尔此れは従前通り

暗中飛や久して戸別訪問する事尔

通常會員内で決志多

(中略)

尚今晚其れより臨時排評会を開久

其れは今晚乃總集會乃模様尔依り戸別訪問する

尔先尔反物を見尔行久事尔し多

明晚より二名 品名並尔植段を調べ尔行久やうし多

其れで閉會 十一時 (後略)

六月二十七日 水曜日 雨

起床 八時二十分

(前略)

今晚 小田原尔国松 金十郎乃二名行久

合宿舎は実尔小勢で 鹿島乃事尔付いて雑談尔

夜を更可し多 他村乃鹿島を非常尔排評し多

合宿舎内も漸次尔祭気分尔無つて来多

終列車尔て歸つて来多 見本を二三反持つて来

多可此れと思ふ奴無可つ多為又明晚二名行久

事尔して良久品を銀味志て注文する様

(後略)

六月二十八日 木曜日 曇り

起床 七時四十分

(前略) 今晚金十郎・■五郎乃二名小田原尔行
久 見本を持って来多 中尔一反良い乃可有り
其れを 非常尔 評議し多可大体は其れ尔
き満る模様である 今晚⑨事曾比曾呉服店
可ら見本を持って来た乃を 根府川之ある人尔
話し多と云ふ事で随分もめ多

又明晩二名行久事尔決つ多 今晚は反物を
見る尔小若しを見張り尔出すやら大騒ぎ
だった(後略)

六月二十九日 金曜日 雨

起床 八時二十分

(前略)

今晚 小田原尔丑明 ■五郎乃二名行久
而して坂妻之乱鬪之若と云ふ乃を八九
呉服店より持って来て大体其れ尔決
す模様である 価は二円乃定価を……
漸久一円八十五銭尔し多 尚帯は⑩より
持知来て其れ尔決す様である

今晚会員は割尔多かつ多 明晩歳上

乃者中老尔鹿島初めを頼み尔行久事尔
奈つ多 歳上之者一名は特別会員を訪問
し揃乃事を願ふ事尔奈る

(後略)

六月三十日 土曜日 曇り

起床 七時半

(前略) 今晚歳上之者中老尔
明晩之鹿島初めを布れて歩いた

就床 十時半

七月一日 日曜日 曇り後雨

起床 五時二十分

(前略)

村中總出……今晚より鹿島初める
中老は幾人も来て久れ奈かつた

(中略)

今晚支部長並に福支部長来りて
揃之事尔付いて非常尔反對説を唱へた可特別
会員半二郎さん 愛造さん等 種 ■ ■ 太等来りて
色々協議乃結果支部長も遂い尔我をおして
此ふ云ふ事尔決つた

支部長福^(マ)支部長は大反対であるが会員一同

賛成志^(マ)て居れば此れもやむを忍ぬと

結曲^(マ)「反対説ではある可^(マ)可愛い会員之為矢表

尔立つと云ふ事を言明志多

終へ多のが十時半 其れより反物あつら

へ尔付いて人名をつぶさ尔あら多めた

就床 十一時半 雨は降つてゐる

七月二日 月曜日 曇天

起床 六時半

(前略)

今晚相変らず鹿島をやる 尚今晚小田原

尔橋本已蔵さん尔惣吉さんの二名行久

揃乃あつらひ尔……七時で行つて■久……

終列車尔て歸つて来た

今晚鹿島は早久切り上げた

十時半だった 其れより会場に来

りて色々と雑談尔更ける

他は別尔用奈久 今晚小若しは中老之使

で明日中老一同船積をする事を布れ左せた

中老も祭之總出をする様では大分鼻

鼻意^(マ)気可^(マ)荒い様だ

青年会も鼻可^(マ)あいて志満ふであろう

就床 十一時

七月三日 火曜日 曇天

起床 五時半

(前略)

今晚 小若しは明日より天草初めを村中

布れ多 鹿島は為尔早久切上げた

就床 十一時五十分

七月四日 水曜日 晴後雨

起床 五時二十分

(前略)

今晚相も変らず鹿島を習ふ

就床 十一時

七月五日 木曜日 晴

起床 五時十分

(前略)

今晚 相変らず鹿島を習ひ今晚一晚

多けだった為皆非常尔猛烈尔習つた

終へた乃可^(マ)十時四十分頃だった

就床 十二時

七月六日 金曜日 晴

起床 五時

(前略)

一時頃より 歳上之者例年尔依つて歸つて祭乃仕度をする

今晚例尔依りて天皇さん^(マツ)乃祭乃為鹿島をおどる 実尔猛烈尔暴れた

其れより宮庭尔来て又鹿島をおどる……

就床 十二時五十分

七月七日 土曜日 曇天

起床 五時

(前略)

今晚相変らず鹿島を習ふ

(後略)

七月九日 月曜日 曇天

起床 五時〇八分

(前略)

今晚相変らず之鹿島之練習今晚は実尔会員も又通常会員も随分小勢だった
中老可来て熱心尔教へて久れた

就床 十一時半

七月十日 火曜日 晴

起床 四時半

(前略)

今晚 マンド乃事尔付いて非常尔合宿舍内はもめた 其乃決尔依つて二名小田原尔鶴亀屋尔相場をきゝに行久

就床 十二時

七月十一日 水曜日 晴

起床 四時五十分

(前略)

今晚又マンド乃件尔付いて種々お宮さんで議志多 鹿島は十一時頃終り

就床 十二時二十分

七月十二日 木曜日 晴

起床 六時十分

(前略)

今晚鹿島は六時五十分頃より初めた^(マツ)
今晚小田原鶴亀屋尔花マンドを取り
尔行久や否やで非常尔議志たが明晩
行久事尔成り 鹿島十一時二十分頃終へた

就床 十二時五十分

尚今晚お宮尔て總會を開きマンド

七月十三日

をふらせて戴久様尔中老氏を中介尔

村之議員尔打ち出志多 再いくく頼んだ

可通過せず遂い尔四時半頃迄一すいも

せず尔 つめ可けて居た 尚今晚小田原

にマンド取り尔五六名行久 途中雨之為

小衆運輸を頼んでトラックで行った

一時頃着いて一時本枝宮本 ■吉さん乃

宅尔とかつぎこみ村と乃交證を持った

而し前書いた通り四時半尔成つても通過

せぬ為中尔入り志中老氏を気乃毒尔思ひ

中老氏と手を切り其れと同時にマンドを

持ち来りてお宮乃けい内尔於て打ちこわ

志てしまった やけ久そ乃餘り其れ尔火を

たきつけて灰尔志てしまった

村乃衆は唯 呆然と志て居た 会員もこ

わすと同時尔お宮尔引き上げた

而し無念乃思顔を皆して居る 中尔

も通俗会員は自分乃勞苦を思ひ名ごり

おしさふる見 火乃上可るを 奈可めて居た

其れ尔て 十六日だけ 休み 勘定日を

兼ねて 一ぱい呑もふと云ふ事に決し

閉会と同時に解散し多

今はまった久夜も明けて月可東天尔上り

初めた 会員其之火尔あたって無念の涙

を流志て散りぐくりに歸って行久

七月十三日 金曜 好天気

起床 奈し

本日は今朝乃無念乃腹可ある為口も

ろ久尔聞か奈かった

本日は朝より村之總集會可会場尔て

開られた 其之内用は今さら申す必要も無い

今朝乃青年乃所業尔付いて善後さ久を講ずべ

久開い多總會であり満志多 其之結果は村議員乃

所業を怒る者多数乃為 村議員は皆あやらまし

此之問題を中老氏尔一時ま可せる 其して何卒して

青年尔従前通り鹿島を舞って本年乃祭典

を無事尔 おさめ度い と云ふ事尔 ■て決し九時

頃終へ多村之輿論は実尔ものすごい様である

十時半頃より 中老氏可青年会尔臨時會議

を要求せし為 直知尔集合を命ぢ多 而し今朝

自由行道免せし為中尔は畑 山尔行きし

者 多数あ里志為 期定時間は過ぎた可遂い尔

寄り可悪る久 今晚めしを食って其れより寄る

と云ふ事決す 集会時間は六時半必ず寄ると云ふ事を 布れさせ多 下乃者通常会員乃意見は無んと中老氏可云ひわけを志ても 必ず神尔知かつてもやらぬとりきんで居る 六時半乃集合時間尔は実尔良久寄り唯二三の歛席者を見多だけで会員一同の顔可無事尔揃った ■て会員尔先多ちて支部長並尔福支部長又特別会員尔至る迄奈んと中老氏可うまひ口を聞いても斷然鹿島はやらぬと大い尔此処尔中老青年会之意氣並尔村之役員一同尔覺性をさせる尔大い尔最も良い時季と云ふ事を主張して 元として應じ奈い事尔決せられ多支部長より会開之舌ありて先ず自己之意見を述べ自分は如何奈る事尔奈ろうとも決して鹿島は打ちませんと……尚其れより福支部長並尔特別会員乃意見を發表した や可て八時半頃より 中老氏来りて豫定通り 鹿島を従前通り舞って此之祭典を無事尔おさめてほしい 村之議員さん達は今さら自己之職せきをはだておりますれば 此処乃所是非まげて今迄之事は水尔流して何卒鹿島を舞って戴き多い此之中老乃顔を立て、戴き多いとくれぐれも頭を下げ多可青年会は絶對尔鹿島はおどれませんとあ久迄強固尔出て とほくく二時頃迄議し多可決せず 遂い尔一時保留として又明晩朝やる事

尔決し会員一同皆合宿舎尔寝る

皆寝乍ら 良い案可あれば 其れを出志たいと考え多可遂い尔決せず皆二晩之つ可れで久つすり寝た

七月十四日 土曜日 晴天

起床 四時半

今朝 四時半頃中老氏可来て た、き起こ志多為尔皆飛起きて只ち尔居ずまひを直して迎へた而し一寸ひけて戴き度いと申志て中老氏

尔引けて戴いて皆顔を洗いて其れより又議した可餘り尔熱心尔中老氏可中尔立って下さる為

其之顔を少志は立て奈ければ成らぬと支部長福支部長乃願之為 さしも乃意志之健個であつ多通常会員

もおれて 鹿島をおさめ之為お宮さんで一回多けおどる事尔決してさしも、めた事件も此処尔一段落

つげ多 今日小田原尔買物買い尔七名乾事

二名で云った 村では い久ら鹿島を舞ふと云つても奈んと成久 一寸引き立、ず祭氣分は割り尔志奈い

就床 十時半

七月十五日 日曜日 晴

起床 六時十分

今朝は例年奈らば猛烈^マ尔^マねる多^マ可^マ本年は其れも成久いと静可^マ多^マ 村では■々本日尔至りて初めて祭典気分^マ成^マつた

午前九時頃より酒はどしくく松本酒店より来る

本日は集合時間十一時半であつた

支部長^マ福^マ支^マ部^マ長^マ等^マ之^マあいさつありて……

酒宴と成り■太^マさん 種^マ ■太^マ郎^マさん^マの三名

猛烈^マ尔^マ呑^マみ又^マ其^マれ^マ尔^マ連^マりて合^マ宿^マ舎^マ員^マも猛

烈^マ尔^マ呑^マんだ 三時少し前頃より久り多して

お宮^マ尔^マと向^マつた実^マ尔^マ其^マ之^マ道^マ中^マはただ中老^マ氣

取^マりて左^マ内^マ扇^マ尔^マてチ^マン^マく^マく^マ節^マを唄^マひ乍^マそろ

くくとあるいて行つた

道中^マ別^マ尔^マ変^マつた事^マも成^マ久^マお宮^マ尔^マと入^マる

尚^マ本^マ日^マは子^マ供^マ之^マ御^マ興^マ可^マ村^マ並^マ尔^マ青^マ年^マ中^マ老^マ之

りよう解^マを得^マて猛^マ烈^マ尔^マ練^マつた

丁度^マ青^マ年^マ可^マ入^マると同^マ時^マ尔^マ御^マ興^マも續^マひて入^マり

無^マ事^マ尔^マお宮^マ尔^マと入^マる 其^マれ^マよ^マり鹿^マ島^マ可^マいとも

壮^マ嚴^マ尔^マ舞^マひ収^マめられた

此^マれ^マ尔^マてさしも もみ^マ尔^マも^マんだ祭^マ典^マもつゝ可^マ成^マ久

終^マつた

其^マれ^マよ^マり神^マ奠^マ乃^マ二^マ幕^マ程^マやつて其^マれ^マよ^マり芝

居^マをや^マつ多^マ 今^マ晚^マ十二^マ時^マ半^マ頃^マ芝^マ居^マも無^マ事^マ終

へ多 就床 一時半

七月十六日 月曜日 晴天

起床 八時十分

(前略)

青年^マ会^マ員^マは一^マ口^マ尔^マ満^マ三^マ十^マ才^マ迄 通^マ常^マ会^マ員^マは二^マ十^マ五^マ才と云^マふ^マけ^マれ^マど実^マ際^マは特^マ別^マ会^マ員^マは二^マ十^マ九^マ才^マで通^マ常^マ会^マ員^マは二^マ十^マ四^マ才^マで最^マ早^マ特^マ別^マ会^マ員^マ尔^マ成^マる

此^マれ^マを例^マ年^マ通^マり^マい^マや規^マ定^マ年^マ間^マ迄^マ会^マ員^マで居^マて

戴^マき^マ度^マいと通^マ常^マ会^マ員^マよ^マり出^マ志^マ多^マ可^マ此^マれ^マは

通^マ過^マせ^マず一^マ時^マ保^マ留^マと成^マつた

(後略)

八月二十四日 金曜日 曇り後雨

起床 五時十五分

(前略)

今^マ晚^マ 子^マ供^マ尔^マ教^マへ^マる鹿^マ島^マ之^マ自^マ作^マを唐^マ寫^マ盤

尔^マてす^マて居^マた 其^マれ^マよ^マり小^マ若^マし^マ尔^マ布

れ^マさせ^マた(後略)

八月二十五日 土曜日 曇り又雨

起床 五時〇〇分

(前略)

今晚 お宮で者子供之鹿島で騒ぎである
校長先生もお見へ尔成つて非常尔
尔ぎや可であつた 終へたの可九時

就床 十時半

八月二十六日 日曜日 曇り

起床 五時十五分

(前略) 今晚も相変らず乃お宮尔て
子供尔鹿島を教へる

子供者仲くく覺へよ久て十七迄・・・
習ら者した 会場之若いし可上之句を
歌ひて 子供達尔下之句を歌わした
案内随分上手尔やつた 明晩踊を教
る登 申したら 子供達非常尔嬉し
がつて居る 終へたの可九時・・・??
(後略)

八月二十七日 月曜日 曇り

起床 五時十分

(前略) 今晚も相変らず子供尔教
へた 今晚 踊を教へた
子供者実尔覺へ可良久て 熱心尔皆教へた
終へた乃者十時頃であつた

就床 十時半

八月二十八日 火曜日 曇り

起床 五時〇〇分

(前略)
今晚 相変らず小共尔鹿島を教へる

・・・今晚者登ても見物可彳可つた・・・
九時頃終へて皆歸る

(後略)

八月二十九日 水曜日 曇り

起床 五時半

(前略) 今晚相変らず小共尔
鹿島踊りを教へた 見物者昨晚登同様・・・
彳勢尔て 宮之 えん端を埋めて居た

(後略)

八月三十日 木曜日 晴・曇

起床五時二十分

(前略)
夜は宮で子供か鹿島をならつた

(後略)

八月廿一日金曜日 午前曇 午后晴

起床 五時二十分

(前略)

夜は子供が鹿鳴をならう

(後略)

九月二日 日曜日 晴天

起床 五時十三分

(前略)

今晚鹿島を教へる 子供者段々成績可^レ良い

(後略)

九月三日月曜日 晴天

起床 五時十分

(前略)

今晚相変らず鹿島を教へる

今晚者子供同志で踊らせた二回踊らし

た可^レ 昨晚登比し大変上手であつた

九時半終へる(後略)

九月四日 火曜日 曇天

起床 五時十分

(前略) 今晚も相変らず教へた今晚一晩で

一時限り翌晩夜學初め之講話会を行つ

て其れより夜學を行ふ為一時休ませる事

尔した(後略)

九月六日 木曜日 五時 曇天

起床五時半

(前略)

今晚鹿島を教へる 皆非常尔熱心

尔教へた

就床十時半

九月十二日 水曜日 曇り小雨少し

起床 五時半

(前略)

今晚小供尔 鹿島を教へる 子供者最早忘れた

者さへ見へ多 鹿島を終へて会場之障子を張る

(後略)

九月十四日 金曜日 晴天

起床 五時十分

(前略) 子供尔鹿島を教へる

(後略)

九月二十四日 月曜日 曇り後雨

起床 五時十五分

(前略) 今晚鹿島を教へる 子供者
最早あき多様である (後略)

九月二十七日 木曜日 晴天

起床 五時十分

(前略)

子供鹿島をおしへる 子供者今日小田原
野久乃練習行つて留守乃為 子供者非常尔少
奈可多 (後略)

十月壹日 月曜日 好天気

起床 五時四十五分

(前略)

会場で者子供乃鹿島を二三之者可教へ
た左ふだ

就床 十時半

十月三日 水曜日 曇り

起床 五時半

(前略)

今晚子供鹿島を教へる

(後略)

十月四日木曜日 曇り小雨

起床 五時十五分

(前略)

今晚者鹿島を教へる 子供者思つたより
多勢である (後略)

十月十一日 木曜日 曇り勝

起床 五時十五分

(前略)

今晚者鹿島を教へる (後略)

十月十五日 月曜日 曇天

起床 五時半

(前略)

今晚鹿島を教へる

(後略)

十月二十二日月曜日 曇天

起床 五時半

(前略)

鹿島を教へる 会員者案外小勢である

(後略)

十月二十五日 木曜日 曇里

起床 五時半

(前略)

今晚鹿島を教える

仲々小供者熱心尔教わる 又教へる者者一心

尔成つて 教へて居る

(後略)

十一月三日 土曜日 晴天

起床 五時半

(前略) 鹿島を教へる

皆熱心尔教わる様た又教へる人も非常

尔熱心で教へた

就床 十時半

十一月 日曜日 好天気

起床 五時半

(前略)

今晚歳上乃者者子供乃鹿島乃道具を造つて

居る(後略)

(※四日)

十一月五日 月曜日 晴天

起床 五時半

(前略)

今晚者鹿島を教へる 見物可一ぱいであつた

(後略)

十一月十日 土曜日 曇り勝ち

起床 七時頃

(前略)

又學校で根府川村乃子供乃鹿島を踊らせる

人氣者非常尔あつた 而し歌上げ者不出来で

あつた 尚子供達者提灯^{へッ}行列を志て歩いた

お宮乃前尔て鹿島を踊らせる

此れ又非常乃人氣を得た 会場で盛ん

尔宴会を開久(後略)

十一月十一日 日曜日 曇天

起床 五時半

(前略)

今晚子供鹿島を教へる 教へる人も熱心奈ら

教わる子供も又熱心である(後略)

十一月十二日 月曜日 曇天

起床 六時半

(前略)

今晚又鹿島を教へる 教わるも教へるも今宵限り
今迄一心尔奈つて習ひ志鹿島もいよく明日踊る日
と成つた 一通里教へて終ふ 其れより会場尔て
者明日乃鹿島乃支度尔豫念可成(マヤ)かつた

(後略)

十一月十三日 火曜日 雨

起床 七時半

(前略) 本日定■學

校尔子供等皆行久又見物も非常尔大数行
つた 鹿島乃歌上げ尔 啓太郎、栄一、■五郎、国松
尔副支部長梅吉さん乃五名行久
鹿島者一番終里尔踊つた登非常奈人氣尔て
拍手会(マヤ)サイであつた登云われた

(後略)

昭和四(一九二九)年

該当記事なし

昭和一一(一九三六)年

六月十九日 金曜日

天候 雨 起床六時

(前略)

夜吉濱青年會より役員二名来て本年
度祭典の鹿島踊を又教しえて来
れる様申込んで来た早速役員
會を開いた結果否支部長が急
用あり来る事出来ず二十五日の定例
の講話會ながら祭典の總集會前
迄に評批會を開いて折依つて報
告する事になつた 又合宿舍にては比評
會を開久 本年の祭典に附いての件大体
本年度に置いては合宿舍としては大勢の予論に
準ずる事になつたや大祭の準備する事に決定した

六月二十日 土曜日 雨 曇

晴れたり曇つたりの天気

評議員會議

議案

一、吉濱青年會に鹿島踊りを教える件

本年を以て三年目になるに未だ充分に出

来ないと云ふ理由を考えて見るに吉濱

青年會は二十五才となれば退会する為

前に練習した者が踊らぬ為新らしい

人が出来ない事に欠かんが有ると思ふので
吉浜青年会としても此の奥に一考をして
もらふ事に良く話したのか良いと云ふ事
で明日支部長か電話を以て吉浜
の役員に当方に向向いてくる様に通
じる事にした、思ふに新規の人を毎年
教える事になると将来幾年も續
く事になる様ではこまる事でも有るので
出来るものをより良教えて之等を
指導の立場になる様にした方が
将来の為に良いと云ふ事になった
十時半 閉会

六月二十一日 日曜日

天候雨 晴 起床六時

(前略)

又吉浜より過日申し込んで来た本年
度に置ける鹿島踊の件に附いて

早速役員會を開いてどうした風に

■教えるものか毎年の様に全會員

に教えるものか其れとも新しいものにか

今迄練習したものに尚鮮し久教え

るものか吉浜の方の本年意向を聴

いた結果昨年迄教はつた者だけ
に尚良久教しえてもらひたいとの事
にて當會としても毎年く繰返し
くわぎぐ教え直しに行久わけ
にわゆかづいづれにしろ又二十五日の總會
に掛けて皆によ久想談した上教えると
言ふ事になつたら根府川で始める前迄も
行久事とし以後二十五日の總會の結果
報告する事になり一先づ切り上げた
就寝 十一時半

六月二十四日 水曜日

天候曇 起床四時半

(前略)

夜明日の定例の講和會ながら祭の
總會を各會員に小若衆を持って振
れらせる

又村會議員 總代 中老 宮世葉人

青年會役員幹部の祭典に付いて

の打合せがあつた會議中各人の話によ

れば明日の定例の講話會に祭の總會

を開久事は祭に對し餘り期間に置いて早

過ぎやしないか出来れば祭典の總會と

しては別に一日頃に開いてもらいたいと言ふ事又本年度の祭は大祭か小祭かの件に附いては不影氣財生困難(マツ)な立場にある役員としての事からか大体の意見が小祭と決つたらしい

就寝 十一時

六月二十五日 木曜日

天候 晴 起床 四時半

(前略)

今晚は定例の講話會ながら祭典の總出であつた 九時に開會なす

總會 協議決定事項

「本年度に於ける祭典を青年會にては如何にするか」

昨年より祭典方法として大祭を打つか打たぬ

かと言ふ事に附いては村内當局者各團體

代表者の集合に依り決定すると言ふ事に

なつたに依つて青年會よりは支部長が出席

なし其の會に昨晚参加なした事により會

に置いては村の意向としては一昨年と一昨昨年

と二年續けて祭典を打ちつてをり又本年度

は祭典番ではない其れよりも昨年の蜜柑

の不作財生(マツ)の困難に置いて何人ら大

祭を打てべきか絶對的に維祭と決定した

との事を支部長が一般會員に報告なし

青年會は村の意向に準ずると言ふ事であ

り其れに置いて支部長より是が非でも村に

したがひ温順に折れて維祭と青年會に

置いても決めてもらひたいとの事にて特別

會員通常會員の協議する

然し 村内當局者各團體代表者が

如何に申せど其の身になつて見て誰が

六月の二十五日頃から大祭をやるなぞと言へ

べきか誰れに於ても必ず維祭と決めるを吾

等から見れば當然と思える依つて大体の村

内に置ける己人の意見を聴いて見るに又

老年の神社に置ける手入れ作業などを

見るに大祭をやるうとは言はないが各人の感

情はすでに其處に行つて居る様に思える

と又 祭典に着る揃えが一昨年吉浜より

鹿島踊りを教しえてもらった礼として下れ

た物であり早三年間になり二年間の月日を

待つて下さる顧問さんに一枚も吾等の力に

よつて着せる事の出来ないと言ふ事は残念

な事である通常會員は何處迄も大祭

にして来れる様願つたが何にしる村内の意向が維祭に昨晚の代俵者幹部の意向が大世の予論である青年會として大祭を打ちたいのは山々だが氣良く折れてもらひ是非維祭にとの特別會員始め役員の願ひに無理にも通す事出来ず 決果 維祭と言ふ事に決まり通常會員の意見も空し久消えた其れが決まり續き七日目の経費の件本年の鹿島始めの件と協議する七日の経費は一般の會員の證知を得て例年通りの経費で行ふ事になつた鹿島に附いては又通常會員則より本年は新し久入會した者二名に又新し久(マ)附久者が四名もある關係上是非一日から始め(マ)らせてもらひたいとの意見であつたが通らず 維祭に置いて餘り早久から神社にて練習する事は良くない事として七日迄會場で習ひ七日より神社に移り本各(マ)に練習する事となり解決した又話しは變り 吉浜青年會で 鹿島踊りを教しえてもらひたいとの件に付きどうすべきか會員に協議をかけた所昨年迄教しえて居りしつかりした事が出来ない 踊って居る内に鮮からなくなつてしまひ思案に困る状態

ですから是非教しえてもらひたいと申し込んで来て居る者を渡りかけた橋上によすと 言ふ事出来ず 又一般の決議から當青年會で練習始める一日頃迄教える事になつた 早速 明二十六日より教しえるのであるが大體向ふの様子がどんなであるか 明日は役員と特に踊りに置いて秘用(マ)な役目の者二名計六人にて出席教える事になると同事様子を見て来て續ぎの日から三分隊位わけて一日交對に行久事に決つた又此の事に付き青年の鹿島踊りの責任者である中老の方特に長鈴木林造稲子藤十郎氏に一應事情を幹事二名を持って通知した 以上總會協議事項決議なす例年と用件が異つた關係上色々混り合ひ遅久迄かゝつた 閉會 一時 就寝一時

六月二十六日 金曜日
天候 晴 起床四時半
(前略) 吉浜の鹿島
踊りの指導に役員外二名八時の汽車で
教しえに行き 十一時頃タクシーで歸て来

大体向ふの様子を調べて来た決果明日
から教しえに行く者の番組を發俵なす

(後略)

六月二十七日 日 土曜日

天候曇 起床四時半

(前略)

夜吉浜に二晩目の者六名八時の

汽車で教しえに行く

(後略)

六月二十八日 日曜日

天候雨 起床五時半

(前略)

吉浜に今日は二日目の番が教しえに行久

(後略)

六月二十九日 月曜日

天候曇 起床四時半

(前略) 三分班の鹿島踊を教しえに行久

(後略)

六月三十日 火曜日

天候曇雨 起床 五時

(前略)

夜合宿舎に於ては月末の批評會を

やる 今年の新し久上にぬけた者四名に

鹿島踊りの役付けである

一般から見^(ママ)て想當なした體質の者又

摘^(ママ)人者なる様な者を舎長顧問の指令

により付けられた

(後略)

七月一日 水曜日

天候曇 起床四時半

(前略) 亦今日から鹿島始めであり

會場にて行ふ最初の日であり又新し

久役付いた者も想當^(ママ)あり久出来ぬと

言ふのは當然である色々としかられつ

ゝも一生懸命やつて居る様であった

就寝 十一時

七月二日 木曜日

天候雨 起床六時

(前略)

午后より副支部長理事が遊びに

来て鹿島太鼓を調べもう少こしで

破れさうになつて居り二三打つとだめであるからどうせ尚(マ)すなら七日の祭り前迄に尚

してしまをうと乃事から理事廣井金十郎

幹事内田鉄雄二名を持って前修善(マ)した菊屋

に尚しに行久事になり早速行つて来た

結果前尚したよりも五十匁安久三圓に

て出来上り見本に持つて行つた皮と

一枚餘分に悪いのをもらつて来てその中

の木が一圓で出来ると言ふので金十郎さん

と歸つて来て役員の者に話し早速支部

長を呼んで役員會を開き其の胴中を買つ

て来て中古品を一個作らうと協議した結

果皆一個新し久作久るとなると事が大き

いがたゞ胴中一個を買つて鹿島には使へ

ぬが毎年はやし太鼓を二つづつかれて一圓

二圓の札をするより想當なのが出来るから買

求めようとなり明日今日注文して来たのを買

やる事に決まつた

鹿島二日目の晩である皆最初の太鼓の

入らなかつたのをはり合ひなさそうだったが出来

て来て早速使えたので揃■一生懸命だった

就寝十一時

七月三日 金曜日

天候曇 起床五時

(前略)

夜今日で三日目乃鹿島練習であり

皆一生懸命やつて居た特別會員に

置いては練習振りに注意を言つた

がやはり正意にかなわず其の通常會

員の道理に認めて下された

又今日岩本兵次さんが昨晚役員會

に於て決つた太鼓の胴を買つて来る

價格一圓

就寝 十一時

七月四日 土曜日

天候晴 起床四時半

(前略)

夜 想當中老年輩の人が鹿島

を教しえに来て下され練習人も指導

者も榮えて練習時間を製(マ)限され

たにも遅く迄やれた亦役員が来て

七日の打合せする 就寝 十時

總出組合す

七月五日 日曜日

天候 曇 起床四時半

(前略)

青年會役員全部集合なしてなす

今日が會場で鹿島練習する最後の日である各々役付けられた者皆明晩に遅れまじと一生懸命練習なす

(中略) 又新上士の者中老會員全部

七日の晩より鹿島を正式に始めるに依り全員に通知す

(後略)

七月六日 月曜日

天候 雨 起床五時五十分

(前略)

新上衆(シンウエノシ)は朝から黄金ビシヤヤヘグシの紙を切つた

(中略) 九時に鹿島を打ち込んだ

(中略)

お宮の境内で打ちこんだのが 十時(後略)

七月七日

火曜日

天候

曇

起床六時

(前略)

夜 鹿島始めだつた

就寝十一時

七月八日

火曜日

天候

曇時々雨

起床四時四十分

(前略)

鹿島踊りを二回 そろした

就寝十一時二十分

七月九日

水曜日

天候

曇雨

起床五時

(前略)

夜鹿島踊を習つた 明晩吉浜

に鹿島踊を教えに行くに 理事の

広井金十郎氏と矢子市郎氏と岩

本兵次氏に頼んだ

(後略)

七月十日

木曜日

天候

雨時々曇

起床六時

(前略)

夜岩本兵次さんと広井金十郎さんと矢子市郎

さんは吉 浜に鹿島踊を教えにいた

こちらでも一生懸命に習つて 十時二十分頃
終りにして 十時四十分頃床に就いた
その頃迄吉 浜にいで来られ諸氏は歸
村しなかつた

就寝十時四十分

七月十一日 金曜日

天候 晴 (ハレ) 起床 五時十分前

(前略)

夜例日の通り鹿島踊を習つた

二回 合はせたか良く踊れたと皆んなか賞め
て呉れた

就寝 十一時

七月十二日 日曜日

天候 曇 起床五時

(前略)

夜鹿島踊を習つた (後略)

七月十三日 月曜日

天候雨曇 起床 五時

(前略)

夜鹿島踊りを二回程合せて切りあげ
てお祭の予算總會を開いた十人程の
不参加があつた

例年の通り昨年度祭典の経費に準じ

ての予算を組み利酒に移りて 中村屋

驛前叶屋 叶屋本店 早川杉坂酒店

か持つて来てあり結句 驛前叶屋 中村屋 杉坂

酒店の三つ店のうちから役員のよい様にと任せられた

その中ばに中老より明日の買物についての注文

に来て その利酒も中老に廻して検してもらつた

(後略)

七月十四日 火曜日

天候 曇 起床五時

(前略) 夜宮の祭典を行ふ

集合七時 支部長福支部長顧問消防小

頭の挨拶について雑題に移り 祭典のみの後任幹事

の指名せり 而して 鈴木省吾氏指名せらる

次に 通常会員より 八拂ひにも特別会員さんも

参加してもらいたいと申し出でる 特別会員も極

力参加する様にと (中略)

鹿島を打ち込んだのか 十時半 お宮の

前で 打ち込んだのか 十一時半

就寝十二時半

七月十五日 水曜日

天候 曇雨少しあり起床四時半

二時半に米神に三名程集をもらひに行く

集合時間十時

支部長副支部長顧問消防小頭の挨拶

あり 雑題に移りて吉浜青年会より酒五升の

御礼がある 別になし

宴会

一時半会場の前の鹿島は打ち込み三時十分

前神社前てて打ち込み 終う 早速八拂

を行なひ 昨日の申し合せの様に多数特別

会員の参加かあつた その頃より雨が降りだ

して来た それが終つたのか六時

夜 村芝居かあつてて皆んな疲かれた体で見えて

た

就寝十二時

天候雨曇 起床五時

(前略)

◎夜役員會開催 廣枝豪之助さんが青年会に

入會さしてもらひたいと親分岩本兵右エ門氏に依頼して

申し込んで来たので入會を認めるか否かについては前の

例に總會で協議せずとも當人に異義なき場合は役員

並び評議員で決定入會させる事の出来る事にて今晚

は當人に異義なき上入會を認める事にし明晩評議

員會を開いて一般會員を集合せせずとも承認を得

て本人を入會させる事に決定した尚普通なら月々の

講話會等を利用して會員の集合して居る時入會

させるのが本當だが毎年暮には講話會をせぬので集

會開久べきだが蜜柑が忙しい時季にて役員評議員の

承認の上入會させる事と決定閉會した

組合に夜業があり會場内は全久小勢である

就寝 九時

拾壹月 十一日 水曜日

天候曇 起床五時

(前略)

夜 評議員會を開久昨晚決定の廣枝豪之助

氏入會の件入會は昨晚の役員會に於て認め

て居るので今晚評議員に承認してもらふと言ふ

※以下は鹿島踊に關係する記事ではないが、青年会入会に關しての様子がう

かがえる記事であるため掲載する。

拾壹月 拾日 火曜日

事になつて居り支部長の説明の元に意義なく

皆の承諾を得て 名儀^(ママ)だけの入會を終えし

する事にしやがて一般會員には明年の總會を

もつて正式入會する事になつた

亦祝酒あり岩本兵右エ門様の親分にて挨拶

暇^(ママ)入會式後に無事閉會した

就寝 十時半

昭和一二(一九三七)年

五月六日 木曜日

天候 晴 起床 五時

今晚役員會議開かる 協議事項は 眞鶴の社司より 鹿嶋踊りの文句をほしいとの

手紙が来たので それをやるかどうかの事で有つた 結果 何の差支へもなからうから

早速やる事に決する

就寝 十時

六月拾五日

火曜日

天候曇り時々晴間アリ 起床 五時半

(前略)

十時より合宿では祭りの為に臨時批判批■会を開久 ソロイとハチハライ
乃事について色々と話し会ふ

(後略)

六月拾六日 水曜日

天候 はれ、くもり 起床五時

(前略)

だがもう 何だか お祭り気分が少からぬ 雰囲気を

かもし出している様だ お祭りになりそう奈 気配いだ

就寝 十時

六月拾七日 木曜日

天候 雨 起床 六時半

(前略)

だが床に入る頃に奈とするはく頭の髪の毛の長い奴ばかり

そして桃色の話 お祭りの話 崑びに満ち溢れている若人が
夜の更くるのも知らず しゃべり續ける そして朝眠たがっている

就寝 十時半

六月廿四日

木曜日

天気 晴 起床 四時五十分

おまつり気分がみ奈ぎって 會場も はりきっている

(後略)

六月廿五日

金曜日

天候晴

起床五時

今晚講話會乍ら祭典の總會が開かれる 講話會の時には郵便局より二名簡易保険の説明に郵便局からわざわざ来られて親切

丁寧の説明して行かれた 簡易保険は国家の為自分の為社会の為の有る故にこぞって入って頂きたいと申されて行った

それより 講話會は時間の関係上ぬきにして 何時もの例の祭典の總會に移る 記録は左記の如し

1. 今年の祭典者 大祭するか子祭にするかと支部長が案を出す通常會員は即刻大祭りして頂きたいと申し立てる

顧問さんも特別會員側も もめる事もなくもう已に村の雰囲気があるに有るからと言ふので 何なく大祭する事に決定し

後日の村の議員會に支部長に會員の總意を主張

頂きたいと言ふ事に 決定す

2. 祭典の順序方法はの案に対し通常會員は 十三日宵宮

拾四日のお浜下り 十五日のお宮入り 拾六日の午前中ハチハライ

午後より決算報告を訴へる 之に対し特別會員

は拾六日のはちはらいは今迄餘り例もないし今■何で奈っ■

に 十五日にしると 反対す 結局通常會員が折れて

それでは御宮入りを少し早くしてもらって十五日にはちはらいをする事に決した

3. 次に拾参日の宵宮に対して支部長が 大祭りでも十四日の宵宮

が折々有った それ故に議員會の参考に その十三日に

宵宮をすと言ふ意向を伺ひたいと申し述べると通常

會員は 村で 拾参日にセングウ祭が行われるそして 十四日に宵宮にする

と一旦こゝで 祭典がきれる様奈感があるのでどうせ大祭ならば拾

参から華々しくやりたい気持故に是非拾参にお願ひする事を

申し上げた 結局村で拾四日したら 青年會もそれに従ふ

事にしてこの問題は終った

4. 鹿嶋始めは 拾参 七月一日から始める事に決定す

5. 舟積みは今迄のは青年會維持費で 之からやるのが祭典の

経費で有ると 支部長に説明され 二十八日頃 舟が入りますからその

時

は又お願ひ致します 尚一雙新しく舟をみつかへたら■をして

頂きたいと役員側から言われて全會員納得する

6. 皆本和夫さんがおぢいさんの死亡につき未だその埋葬をして奈い

ものですから 席にはついてくれるが御輿しや 鹿嶋踊りには遠慮

さしてもたいたいと言われ 會員もそれを認める

7. 通常會員より マンドウの事をまかせてもらいたいと言へば

皆それを 認めてくれ何の理由も奈く 通常會員が引き受ける事

に 決す

8. そろいの事について通常會員が 之も一切をまかせて頂きたい

と申し立てると 役員並び特別會員が未だ祭典の大小と

言ふ事は決定したものは奈いからそれは未だまかせせる事は出来

ないが 大祭と決定した時には 責任をもってやってもらいたいとの

事で 決まり之からまんどウの出る時には そろいをこしらへて

さしつかへない事に決めて置く

9. 例年の如く七日目には少し位の雨でも下刈をする事にする

この日岩本丑明、広井金十郎、■山義郎の三名が

てんこに当り出来奈い腹を申し上げる と會員もそれを認む

10. 七日目の豫算は 前例に習って行く事にして 役員関にまかせる

事にす 以上

それで總會は終つて次に 岩本乙吉さんのムコ 岩本竹次郎

さんが入會された 親分は 杉本清兵衛さんで有る

例の如き型で入會も何なくされた

終り

就寝 十二時半

六月廿六日 土曜日

天候 晴 起床五時二十分

何處へ行つても 誰に會つても祭典の話しでもちきつている 今迄に奈い大祭り

が かもし出されそうだ 人通りのさわぎでは奈い 併しこゝで心配奈のは

経費の點だ 青年會の役員も頭を相当には 痛めている事だろう

親の心子知らずで會員はそんな事にとん ■奈い 唯のはりきり様では

奈い 今晚岩本兵次 宮川七 賀 鈴木良一 内田鉄雄の四名が

そろいを見つかへに行つた やっぱりたいした物が奈く 帰つて来た

尚まんどうを出してしらべたりしていた

就寝 一時半

六月廿七日 日曜日

天候 曇り 起床 五時拾五分

はりきつている祭典気分そろいも 未だきまず^(ママ) あれがよい 之が

よい等とすつたもんだで いる いさゝか會場の者もさじを投げ

気味で有る 夜 内田一正 岩本兵次 内田鉄雄 宮川七 賀

内田六郎 和田 ■ 夫 鈴木良一可 小田原へそろいとまんどう

の話し会ひに行く

就寝 十二時

六月廿八日 月曜日

天候 雨 起床六時

(前略)

會場ではそろいを出して又あれだこれだをやっている

結局八九のばん傘の反物に決定した

幹事二名 小田原へうちのは ■ 子をし奈をしに

行く 広井崑 ■ ■ ■ 内田六郎の三人が

そろいを ■ しに行く 尚六時の汽車で郵便局

から見へ保険をもつて行く

まんどうのぬりかへに 灯提屋^(ママ)をつれてくる

まア大体の事は決まつた

就寝 十一時半

六月廿九日 火曜日

天候 雨くもり 起床五時半

今晚マンドウを④の自動車を頼んで小田原へもつていった

幹事二名と矢子純輔 杉本傳造とあいた外の者は

皆行ってしまった そろいも ついでに ■し又きめてくる

評議員會を開らく

問題は矢子博君が家庭の事上^{ついで}で七日目に青年會に

入會する事になった で七日目かわりに鹿嶋おどりを踊りたいから

一日からおしへてもらいたいとの事だった 評議員間で之を

認め 顧問さんの處へ承認してもらふ それだ希で有った

(後略)

六月卅日 水曜日

天候雨 起床 六時半

今晚わ青年會合宿舎で月末の■會をやる

祭典の八拂の行動や其の他の事を議す

(後略)

七月一日 木曜日

天候雨 起床 七時

今日から鹿嶋 始めて中老の心も皆よく 始めだ希に来て

くれた 朝 役員會議を開く 事項は 岩本竹次郎

さんが つとめの関係上鹿嶋おどりがやめられたら止めさせ

て頂きたいとの事で有った 結局来られる限りは

一時間でもいい、から一ばんおきに習いに来て貰ふ様にと

回答しておいた

(後略)

七月参日 土曜日

天候 晴曇 起床五時十分前

(前略)

鹿嶋踊りも大分熱が乗つて来た

就寢 十一時半

七月四日 日曜日

天候 晴 起床 五時

(前略)

鹿嶋踊りも明日一晩で 一きりだ 皆一生懸命に

なつてやっている

就寢 十一時半

七月五日 月曜日

天候 晴 起床五時

(前略)

鹿嶋踊りも今晚だ希で有るので 仲々熱心に夜遅く迄やっていた

(後略)

七月六日 火曜日

天候 晴曇 起床 四時半

珍らしく七ヶ日乃宵宮に天候だった晝間蛙子の下刈りをし三時頃には終わった
新上士は午後山を下って鹿嶋踊りの飾り付希■する

(中略)

雑題

支部長が青年會乃總意は拾參日宵宮で 拾四日のお浜りおり

拾五日のお宮入り つづいてハチハラライ乃積りで有ったが村との関係

上(村では氏神様のせんぐう式が拾參に有り■神樂芝居が有る)■

それらが終ってから宵宮の支度も困難奈事で有るし

する事で有るから 宵宮を奈くして拾四日におはまおりをし

拾五日に一日中ねってお宮入りをし拾六日乃午前中ハチハラライ

をしそれより勘定日とした 之に皆賛成をする

(中略)

續いて 米神支部から祭典の招待状が来たから■からも

米神や各支部へ招待状を出すかどうかの問題につき

広井金十郎さんがそうした事は こっちで幾ら招待状をもらっても

行か奈いのと同じ様に他支部でも太いがい来奈いだろうから

それではたゞケイシキにばかり奈って意味を奈さないからこゝで

決めるよりも理事にまわした方がよからう それからの事にして

はどうかと言われ皆それに同意したのでこの問題は理事

會迄一時預ける事しておく

次に岩本竹次さんが鉄道へ務めの関係からして 鹿嶋おどり

も餘り習ひ来らず未だおどれ奈いからこの七日間かしまおどりを

遠慮さしてもらいたいと申し出でが有り皆おどれ奈いものを

おどれと言つても 仕方が奈いから極力奈らひ来て貰ふ事

にして承知する

内田六郎和田■夫の二名が足がいたくておしつこが出来奈い

からの申し出でに 対して 之も止むを得奈からうとの事で

承認する

皆本和夫古沢次郎森本崑■の三名 未だ不幸を

食つて月数がたゝ奈い故にかしま踊りを遠慮さしてもらいたい

との事で 之も皆承認する 以上

酒宴

(中略) 拾■時半頃 鹿嶋うちこみの答礼によって鹿しまを打ちこむ

(答礼は年寄連から二度 青年會から二度だった)

今年は何のもめ事も奈くしごく順調に運ばれた

(後略)

七月七日 水曜日

天候晴 起床 六時半

(前略) 夜は鹿嶋おどりをやら奈いと言って

やら奈い積りでいたが支部長が来て 七ヶ日に休んだ事はないと言ふ

ので八時頃おくり出して 特別会員や通常会員を

ふれて一通りやってしまった 直 小若士にまんだのふり方を

中老が教へた

就寝 十一時

七月八日 木曜日

天候晴 起床 五時十分

今日は祭典乃そろいの總出を（神崎■次氏の）人負拾七名四時頃終る

（中略）

かしまおどりも大分熱がのつて来ている

就寝 十一時

七月拾日 土曜日 晴 五時十分すぎ

（前略）たいこを一つ買ってくる

村で集會が有ったので鹿嶋踊りも餘りふるは奈かった

七月拾壹日 日曜日 五時 くもり

今晚祭典乃豫算を組む 昭和九年のを基本にだいたいそれに順じて

予算を作っていた

（後略）

七月拾貳日 月曜日 晴

本日會場の前にアーチを作ったり神風号を作ったり藁人形

大砲等を作って祭典のかざり付けをする

こん奈 大じかけ奈祭典は恐らく二度と見られ奈いで有ろう

全く美と大仕掛けそのもので有った

役員は簿記を調査する

夕方八時頃から氏神様のせん宮しきが行われ會場の者は

かざり日（マ）をたきに出た その模様は先づ はをりはかまに白足袋

の身装で 總代の内より 列に奈つてでゝ来神主を先頭に

招待客村民達と鳥居をくゞり 広場に整列する

この時かざり日（マ）は 上段に一ヶ所 下段の広場に二ば所道の

両側でとんとくとたく

天皇様の社より御鬼（マ）を出して本殿にうつしかへる

この時一同 頭を下げる やがてその式も終つて御酒と

ごつくを分ち与へて閉式とした

時に九時半 幾年ぶりであろうした事に会ふか

とに角まれ奈このぎしきたまに見た吾には一種異様の

侵しがたい尊嚴にうたれた

就寝 十時半

七月拾參日 火曜日 曇 五時

午前中鹿島おどりの道具を作る 村では せぐうしきの

ふるまいが有った（午前十時より）十二時頃小田原の目

でまんどろをとりに行く ついでに買物もしてくる

まんどろは 思ったより立派に出来ていた

酒匂でくみたてゝもつて来て一晩組合の作業倉

にしまつておく 村で芝居をやつていた

まんどろの組立は 波を今迄のより大きして四本とした

ぼたんの花は二十四五本でそれについた花が
赤紫 赤白のまじり ■二色で数は六十近く有った
夜七時半頃かへって来たのでそのまゝにし皆明日の朝
やる事にした 尚 處女会二名とおばさん二人を
頼んだ

就寝 十二時

七月拾四日 水曜日 雨 四時半

祭典記録

午前十時に始める予定で有ったが のびくに奈って 十一時半
になつてしまつた

例によつて 次才書に従ふ

一・支部長 副支部長 顧問消防小頭の挨拶
から始まつた

雑題に入る前に 年寄連から答礼が来た

鹿嶋始めを 一時頃にして貰ひたいと思ひますから何分

お願申しますとの事だつた

理事が中老に答礼に行く

(中略)

酒宴の最中年寄連から答礼が来る

中老から三度 酒宴もたけ奈わになつて 一時半

頃中老より鹿嶋打ちこみの使ひが来て鹿嶋を

打ちこむ

あいにくの雨の為 セツカク裝飾した萬燈もだい奈し
にこはれてしまつた 四時半頃 お濱おもりもすんで すぐに
通常会員達はへぐしや三役の道具のかざりつけを

特別会員は萬燈の ■秀に

二三の合宿 ■の頭と役員一名が 酒匂に徹夜で

花をこしらへに行く (五時五十四分で行き 七時五分で帰る)

ぼたんば奈を式拾 だし花の紙だ希を買つてくる

それより處女會を頼んで 通常会員總出で作る

残つた者は 大雨の為まんどろを見はりに行く

六人ばかりで有つた 酒や俵をもつていつて唄ひさわいだ

十時半頃すべてを老人連の頭におたの申して會場へ帰

つて来る 大分夜更希迄かゝつて 作つた

就寝 十一時半

七月拾五日 木曜日

天候雨くもり 起床 五時

(前略)

酒宴に移る前に中老から答礼が来た

酒宴も大分酔がまわつてくる頃 十二時一時すぎた頃

鹿嶋始めの答礼が来て かしまを打ちこむ

お釋(ママ)加様(ママ)からねり登つて来た仲々(ママ)しつかりした 年寄連の

輿には青年も たへず おされ気味で有つた

六時頃入り終つて めだ(ママ)たく(ママ)總代の萬才(ママ)三唱と共に

本年度の大祭をつゝが奈く終了する事が出来た

それより万燈を青年の宿迄おくり中老氏の

挨拶が終り再び中老氏を宿迄送り届け

支部長の御礼の挨拶に終った

夜何か茶番の様奈ものを頼んで組合の倉庫で

催す事に奈っているのでその支度をすぐにその足で

入つて作る

こゝに本日の大祭を目出度く終了す

就寝 十一時

七月拾六日 金曜日

天候 起床

(前略) 次に祭典七ヶ日の決算報告 之も無事に

通つて 青年前半期の事業報告 防火■の皮むき

舟積み總出 半分を祭典経費半分をいじひにまわす

(中略)

雑題

現在いじひに相当困窮しているので萬燈を出した年は

祝儀を全部いじひにまは志たいと言ふ案が出た

役員が相当こん窮の結果こうした案が出たのだ

まんだうの出奈い年はいつもの様に修繕費として組立て

ておく事にする 会員も之の案に大賛成をし

決定す

(中略)

消防小頭(広梅)さんが祭典に一寸感じた事を

進言したいと言つて 一つの案を出されたそれは

年が来から中老へぬけ年よりへぬけて行くと言ふ

現在のやり方では 青年の特別會員が非常に

少奈く中老や年寄ばかりだ■つてしまふと

言ふ事になる もしこんな事は奈かろうが

むしろこの際 青年がもし万燈をのつき■たら

■■によつてる事で有るから つのを出して

争ひ合ふ様奈事に奈りはし奈いかと思ふ

切に特別會員の定年限を一考して見たら

どうかと言われた

尚それにつけ加へて顧問さんがそんな奈関係上樂しかる

べき祭典をいさかひの内に終らしてしまは奈ければ

奈ら奈い 且つても例が奈い事では奈いしする故に

■こうした問題は且つ會員内でもおきた事が

有つたがこの度は消防小頭顧問さんから出たので

特別通常の両會員が協議して貰ひたいと支部長

が申されたので 尚こうした問題は通常會員が

大体主で決めて頂いた方がよからうと言ふので通常

會員がよつて協議する 協議の結果

こゝ五六年間特別會員が並び通常會員の

主だった者が激減して行くので 有ります■■規定

即會員としてふみとゞまつて 頂きた■決定する

尚顧問さんが口を入れて前例も有るし事です

から 記録をたどつて特別會員に納得して

頂く事にする

それに対し特別會員がよつて協議する

協議の結果

お祭り會員として頂きたいと 後はいつもの如く

満三十才でぬけて たゞお祭りだけ青年

會員として留まるそして祭典の總出には

出る事にしておく 年限は三十三才のお祭り

迄之に対し何分お願い致しますと通常

會員も決定す

(後略)

七月廿壹日 晴 五時十分すぎ

祭りが終へた後の合宿舎はまるで火の消へた様子

(後略)

昭和一三(一九三八)年

該当記事なし

昭和一七(一九四二)年

七月六日天候晴 起床 六時

(前略)

五時頃まで鹿島の道具をつくる

六時から天王様の祭典式をする

初に國民議礼をし部長複部長

顧問さんの挨拶が有り つづいて雑談に

移る

雑談をして鹿島初の件

明日の鹿島初は七日の夜から初るは

ずで有ったか明日まなかあらいで有るから

八日から初る事となる

(後略)

七月七日 天候晴 起床 七時

(前略)

夜るは中老のところえ明夜の鹿島

初をふれに行く 就寝 九時半

七月八日天候晴 起床 五時

(前略) 夜るは鹿島を練習する

(後略)

七月九日天候晴 起床 五時

(前略) 夜るは鹿島の練習する 就寝十一時

七月十二日 天候晴 起床 五時

(前略) 夜るは鹿島の練習をする 就寝十一時

七月十三日 天候晴 起床 五時

(前略)

明日は夜宮で有るので今夜一夜

みつちり鹿島の練習をする 就寝十一時

明日の予算をくむ

七月十四日 天候晴 起床 五時

今日は晝前祭りの買出しに行く

午後から鹿島の動具(つと)をつくる夜るは八時

■ 夜宮祭を初る 初に國民儀礼及び

部長複部長顧問の挨拶が有り繼きに雑談

に移る (中略)

一 通常会員の意見として会員がすくな

いので部長以下羽織をぬいで鹿島を

踊ってもらいたいとの意見に対し踊る事

に決定する (後略)

七月十五日 天候晴 起床 六時

(前略) 通常会員より会員が少ないので部長以下羽織をぬく事にしてもらう

鹿島も無事にすみ八拂いに行く 就寝十一時

七月十七日 晴 起床 七時

(前略)

青年の者はほね休めする

(後略)

昭和一八(一九四三)年

六月二十五日 晴 起床五時

(前略)

事項 (祭典總會)

一・祭典實施方法 居祭と決定

一・鹿島踊りの日時 七日よりと決定

(後略)

六月二十六日 晴 起床 五時

夜八時半より 村の祭典集會あり 部長以下四名出席す

就寝 九時三十分

六月三十日 曇 起床 五時

八時半より役員會あり ■事項

(中略)

一・祭典ノ件 居祭と決定

以上 就寝 十時

七月一日 天候 曇 起床 五時

祭典の鹿島踊りの練習を非公式に会場内に行ふ 青年団員のみなり

就寝 十時三十分

七月二日 天候 曇・晴 起床 五時

鹿島踊り練習 十時迄行ふ

就寝 十時三十分

七月三日 曇後雨 起床 五時

鹿島踊り練習を行ふ

就寝 十一時

七月四日 雨 起床 六時三十分

豪雨となり 朝より晩まで降り続く

鹿島踊り練習

六日の總出の人割を作る

就寝 十一時

七月五日 雨 起床 五時

鹿島踊りの練習を行ふ 明日の人割を布れる

就寝 十一時

七月六日 曇 起床 五時

總出の仕事 青年所有林 牧谷の下刈・■焼野の
つるきり・堆肥運搬・道場清掃・天王様夜宮

祭りのしたく・牧谷の下刈は早く終り漁業の松林の

下刈を行へり

集合八時 都合により

八時半より 天王様夜宮祭り

次第書に依り

(中略)

一・通常会員より鹿島踊りの人員少なき為

審議員に羽織をぬいでもらいたいとこの意を承諾す

酒宴に移り

十時鹿島を打ち込む

七月七日 晴 起床 六時

本日マンガ洗ヒなり 故に鹿島踊り始めは

明晩とす

中老と鹿島始めの旨御願ひに行く

就寝 十時

七月八日 晴 起床 五時

(前略)

夜鹿島を神社にて行ふ(後略)

七月九日 晴 起床 五時

鹿島踊りを行ふ

就寝 十一時

七月十日 晴 起床 五時

夜鹿島踊りを行ふ

就寝 十一時

七月十一日 晴 起床 五時

夜鹿島踊りを行ふ

就寝 十一時

七月十二日 晴 起床 四時半

夜鹿島踊りを行ふ

就寝 十一時

七月十三日 晴 起床 四時三十分

(前略)

夜鹿島踊りを一度そろへて

定期の祭典豫算總會を開く

(中老への団扇、草りは

なければなくとも良いが

草りはこしへつく者だけの

分十足だけは何とかし

て呉れとの話あり)

就寝 十一時

七月十四日 晴 起床 五時 本日寺山神社夜宮祭りなり

朝二人江の浦へ舟をもらひに行く

部長審議員 幹事 小若衆 各一人づつ 四人 小田原へ買ひ

出しに行く 他の者はのこりて種々の仕度をする

集合時間 七時三十分なれども少し遅れる

國民議礼・部長・副部长・顧問の挨拶あり

雑題に移る 前夜決めた、中老への団扇・草鞋は

遠慮してもらおう事について、中老の間に於いては意見の

一致を見ないとの事を聞き 役員間に於いて相談し

団扇・草鞋を買って中老へ渡した事について 一般の

承諾を得たり

副部长広井森雄、親類に不幸あった為

審議員沼田武雄お産の為 共にお宮に入り鹿島をおどる事を

遠慮してもらおう旨承諾す

審議員一名、答礼としてお宮に入る事出来得ぬ

為指名にて矢子純輔を代理となす

通常団員よりお宮に於いて鹿島を踊る時には審議

員に羽織を脱いでもらいたいとの話あり承諾す

これは祭典中 次第書に依り酒宴に移る

鹿島踊り打ち込み十時なり

こゝに夜宮祭りは皆元気■朧の中に無事終了せり

七月十五日 晴後雨 起床五時三十分

寺山神社祭典の當日なり

朝三人江の浦に魚もらひに行く 御礼として事ム所へ

酒一升を持つて行く 午前中に仕度をす

集合時間十二時三十分 子供の御輿が容易に出ず

次第書に依り一時間余遅れる

青年団長安西貞一も出席す

次第書に依り始めに国民儀礼・各役員挨拶

雑題に移る用件なし 直ぐに酒宴に移る

鹿島打ち込み四時三時四十分なり 終了後八払ひに歩く

途中で雨に会ひ 折角の化粧も半ばはげ ほうく

の体にて歸る

夜組合二階にて芝居あり

七月十六日 晴 起床五時三十分

祭典勘定日なり

朝江ノ浦に■人魚をもらひに行く

午前中 決算を行ふ

(中略) 七ヶ目祭典経費 祭典経費・報告

あり 前年通り八払ひの経費御祝儀は萬燈

積立金として定期貯金に払込む事とせり

(中略)

盛大のうちに祭典の三日間は無事に終了せり

七月十八日 晴 起床 五時

祭典後で皆つかれたらしい 夜も早く寝る

就寝 九時三十分

昭和一九(一九四四)年

六月二十五日 曇り 起床五時

夜八時半より定期總會、会催せり

開会に先立ち役員会

漁業会所有林下刈を維持費出にて行ふ事とす

入団者稲葉武義あり 祭典の酒の心配

總會事項

一・祭典實施方法 時局がら村の大勢に基き行ふ

一・鹿島始め 七日より始める事とす 七日迄合宿舍内

で非公式に練習すべく決定せり

一・維持費總出の件 維持費も相当の額に上り

其の上団員も少き為め二日にせり

一・七日日の總出は漁業会所有林下刈

一・入団式 入団者稲葉武義

親分鈴木定春

九時終了

敵艦隊大兵力なほ行動中なり 就床九時半

二十七日 晴起床五時

夜七日日の酒の事について部長さん見える

お花有り道場使用せり 就床九時半

七月一日晴 起床五時

今晚より鹿島踊り練習を道場内にて非公式に

行ふ 団員のみ

就床十一時

七月二日 曇り 起床五時

鹿島踊り練習（後略）

七月四 曇り起床五時

夜鹿島踊り練習（後略）

七月六日 曇り起床五時

總出の予定なれど朝少々雨が降り曇って居たため取やめ
十四日に行ふ事にす

天王様祭典 集合祭開時間八時なれど

神社電氣事故の為八時半より始まる

式次

（中略）

一・鹿島踊りの人員少き為副部長以下参加する事となる

酒宴

鹿島を十時半に打込む

就床十二時

七月七日・晴・起床六時

（前略）

鹿島始めは明晩よりとなり其ノ旨中老にお願に行く

就床十時

七月八日晴 起床五時

大詔奉戴日

鹿島踊り■宮様より練習始める 就床十一時

七月十日 晴 起床五時

鹿島練習

就床十一時半

七月十一日 起床五時

鹿島練習（後略）

七月十二日 晴 起床五時

(前略)

その為鹿島踊り非公式に練習 就床十一時

七月十三日 晴 起床五時

鹿島練習は国民學校にて行ふ 終つてから

定期祭典豫算總會開催(今晚中老よりのトウレイなし)

就床十一時

七月十四日 晴 起床五時

寺山神社 夜宮祭り 朝江ノ浦へ二人魚をもらひに行く

(中略)

小若衆は祭典の支度

集合八時

(中略)

2 八拂ヒの件 合宿より舎員少類其ノ他諸用の為め

十六日勘定日に行なはせてもらふ様願ふ 意儀有^(ママ)り

はつきり決定せず

(中略)

鹿島打込み十時 時節がら思ふ様なノミ物喰ひ物も

なかつたが 元氣に たのしく終了せり

夜宮祭り

就床十二時

七月十五日

祭典當日なり 今朝も二人江ノ浦へ魚取りに行く

午前中仕度 別に買物もなし

集合時間一時 次第書きに基き

国民儀禮 挨拶 雑題

少員の為め役員にも ハオリをぬいでもらつて

鹿島 八拂を行つてもらふ事となる

酒宴 酒も少々なりしが面白くゆかいに行へたり

鹿島打込み 四時 終つて八拂ヒ 案外 早く

まわり終つたり 神社 境内にて芝居あり 就床十一時

七月十六日 祭典 勘定日 今朝も魚をもらひに行く

取れない為め少々なり

午前中決算をす

(中略)

五時閉会せり 今日を持つて昭和拾九年夏祭典を

目でたく終了する事が出来たり 就床十時

昭和二六(一九五二)年

五月二十三日 水 晴 起床六時

午後九時三十分より役員会を行う

協議事項

一・祭典費捻出の件

昨年残が僅少なので何等かの収入を得て之に当てべく

協議の結果 總出を以て所有林の間伐を行ひ之を賣却

する事に決定 日时五月二十五日 集合時間 七時 となる

(後略)

六月十五日 金 雨 起床 七時

午後よりしやぎり太鼓の練習始る 就床 十時三十分

六月十六日 土 雨 起床 七時

しやぎり練習 就床 十一時

六月十七日 日 晴 起床 六時

しやぎり練習を行う 就床 十一時三十分

六月二十五日 月 曇後雨 起床 六時

午後九時三十分より定期總會を開催す

(中略)

四. 祭典に関する件

一. 報告 六月二十二日 部落祭典委員会があり左の事を決定せり

イ. 御輿は出す事になる

ロ. 余興を行う事になる

二. 協議

イ. 屋台の件 出す事に決定せり

ロ. 八拂の件 之を行うと決定 団長各自の協力を乞う

ハ. 予算の件 細部は次会にし酒に関しては役員に一任となる

ニ. 祭典会員の件 例年通りと決定会費は一人三百円と決定

ホ. 浴衣の件 部落は本年度浴衣を揃へようとの空気があり

団としても此の機を利用し浴衣を作る事に決定せり

之に關し団として幾等かの補助をする事に決る

三. 合宿舎申出(イ). 本年度役付 宮本均 三役内定

本年度 上の句 六名 下の句 五名

(ロ). 七月二日午後八時三十分より鹿島練習始め願ひあり

右二項 一同承認し之を決定せり

一. 鹿島練習終了時間は十時三十分と内定す

二. 本年度うちは購入五十本と決る

以上

終了十一時三十分

就床十二時

六月二十九日 金 雨後曇 起床六時三十分

しやぎり練習で就床が遅くなりつゝ・・・ 就床 十一時三十分

七月二日 月 雨 起床七時三十分

今夜より鹿島練習始る 就床 十一時二十分

七月三日 火 雨後曇 起床七時

鹿島練習行ふ 就床十一時十五分

いよく迫った祭典に練習大いに張切る 就床 十二時

七月四日 水 雨後曇 起床六時

七月十三日 金 曇後晴 起床六時

鹿島練習行う 就床十一時三十分

夜鹿島練習後

十一時より祭典予算總會を行う

七月六日 金 曇 起床六時

予算に先立ち

天のしづり地の活気 浴衣分配 就床十二時

一・揃いの決算報告有り

団長より間際交渉の為先の予算を超過した事に付詫びの言葉有り

七月七日 土 晴 起床六時

總量 六十三反 反 七百人拾円 帯付反九百四拾二円

鹿島練習に熱が入る 就床十二時

總金 五万九千九百八拾円(雜費も含む)

イ. 団補助金 役員分に於て 個人出金 一般団員にして貯金なして

七月八日 日 曇後雨 起床六時

一般団員 二百二円 七百四拾円 居る者は上の金額を以

鹿島練習行う 就床十一時

学生〃〃 一百二円 八百四拾円 て貯金より差引いた

顧問 四百円

七月九日 月 雨後曇 起床六時

協議 前には顧問に団員と同じく揃いを提供したが 前と事情も違ふ

鹿島練習 就床十一時三十分

ので一般団員の■■額を以て揃いの補助金とすべく団より支出する事

に

七月十日 火 晴後俄雨なり 起床六時

してはとの役員意向に対し団員異議なし之を承認す

本日より農業会階上にて鹿島練習行う 就床十二時

団補助金支出総計一万一千二百三拾円也

一・祭典予算に移る

七月十一日 水 晴時折俄雨なり 起床六時

団長より本日中午井一郎氏より当団へ御祝儀として清酒五升届いた

鹿島練習にて就床遅くなる 就床十一時三十分

旨報告■り

其ノ他

七月十二日 木 雨 起床 七時

本年度総予算 一万七千円位を以て行うと決定す

(後略)

七月十四日 土 雨 起床六時

祭典夜宮祭

午前七時集合 五時頃準備を完了し午後七時集合
午後八時より夜宮祭儀式を行う

式次第

団長挨拶

副団長〃〃

顧問^(マ) 〃〃

雑題

(中略)

協議 役員多■の為

一・明日の屋台責任者を選任してはとの団長の案に依り之を協議し

岩本弘さんに決定さる 終つて酒宴に移る

鹿島踊は降雨の中大いに青年の氣勢を挙げて行く

島然し揃は村の意向に従ひ新調は着用せず今迄の者を着用した

打 十二時四十分 就床二時

込

七月十五日 日 雨 起床六時

午前七時三十分集合 準備をなし

十一時三十分より祭典總會を行う

報告一・当日行事延期の件

部落合同委員会に於て雨の為本日は祭典当日としての

行事を一切中止する事に意見の一致をみ 之を決定せり

一・明日の行事は天候に依り又委員会の決定に従ひ行う事になる

祭典予算超過承認の件

一・当然祭典日数か一日延びる譯で当初の予算を超過する事に必死
で有り

此の点に関しては役員に一任し異議なく承認競り

(後略)

七月十六日 月 雨後晴 起床 六時

昨日が延びた 祭典當日なり

午前七時集合 準備にかゝり

十一時より当日の儀式を行う 式次第昨日通り

雑題に入り

団長より本日は御濱降りは無くなつた旨報告有り

終つて酒宴に移る 気づかれた天候もやうやく回復し晴門が見へ

初めた^(マ)

鹿島打込 十二時

本日の鹿島踊り四回(内一宅前、中老宿(農業会)前

納め五時半頃 当日の行事を此處に目出度く終了した

屋台、大輿、中輿、少輿 大いに振り、又、揃いが一段の色を添へ

た

夜 下の倉庫に於て芝居を行う 就床 十二時三十分

報告

一・衣料門屋御札の件

祭典浴衣新調の際 世話になった

濱松市神明町二十番稲忠商事様式会社

に蜜柑一箱(六メ、四メは中老分)を送った

一・屋台心棒の件

二十日に入荷予定 以上 終了八時三十分 就床八時四十分

七月十七日 火 雨後曇 起床 六時十分

勘定日 集合 七時

八拂い出発 九時、雨の中大いに氣勢を上げて之を終了した

午後二時三十分より祭典決算總會を行う

(中略)

五・役員会報告(六月二十二日)あり

終つて酒宴に移り 最後に昨日江之浦青年団が当地に於てシヤギ

リを打ち

当青年団を侮辱した事に對し江之浦青年団長、顧問を呼び事情を聞

き、なごやか

な内に相方^{マタ}之を了解し解決した 終了 七時

昭和二七(一九五二)年

六月二十日 金 曇時折雨 起床五時

今夜よりしやぎり太鼓の練習を行う 就床十時十分

六月二十一日 土 曇 起床五時五分

夏至 夜しやぎり 就床十時十五分

六月二十二日 日 晴後曇 起床五時

夜しやぎり練習を行う 就床十時二十分

六月二十三日 月 雨 起床五時二十分

しやぎり練習を行う 就床十時三十分

六月二十四日 火 曇後雨 起床五時十分

午後九時より役員会開催す

七月十八日 水 薄曇なり 起床六時十分

午前七時集合 片付けを行う 終了十時三十分

十一時解散せり 就床十時三十分

十一月十三日 火 曇 起床五時二十五分

午後七時二十分より役員會議を行う

(中略)

協議

一. 祭典運営方法

男女合併才一回の祭典の為 改革すべき事項に付き検討せり
女子全面的参加、夜宮鹿島打込は九時 其他は例年通りの事

(後略)

六月二十五日 水 曇 起床五時十分

祭典總會 午後八時三十分開會

(中略)

祭典問題に入る

一. 予算 役員に一任さる

・合宿舎長より、七月二日より鹿島練習を行ない七月の申出あり

一同承認す 午八—十半

イ. 役付け報告あり本年度六名(広嘉、広時、鈴庚、善庄、岩判、鈴芳)

以上

祭典運営方法の検討に移る

一. 従来の答札を廃止し三者(青中老)の代表に依り圓滑なる

運営を行う事に意見の一致をみる

一. 女子は料理、屋台、程度の参加を以て他は従来通りとする

一. 八拂 十六日 従前通り行ふ事にする

提案 八拂の件 鈴木邦夫

従来の合宿依存を止め 全負参加してはとの案あり

之の提案に對し

合宿舎長より従前通り合宿に於て之れを行う旨の発言あり

結局 従前通り行う事に決定す

団長各自の協力を願う

以上 終了 十二時四十分 就床十二時

六月二十六日 木 曇小雨あり 起床五時三十分

しやぎり練習も白熱化す 就床十時四十分

六月二十八日 土 晴 起床五時

しやぎり練習行う 就床十時四十分

六月二十九日 日 曇俄雨あり 起床五時五分

しやぎり練習

七月二日 水 雨 起床六時

村の意向に従い 鹿島 正式練習は五日より

行う事になる 今夜より非公式練習に入る 於会場

就床十一時

七月三日 木 雨後晴 起床七時

鹿島練習を行う 於会場 就床十一時

七月四日 金 曇後晴 起床五時十分

今夜より正式な練習を行う 神社内 就床十一時

七月五日 土 曇後晴 起床五時十分

夜、鹿島練習、役員 祭典予算を組む
総計約三万円

就床十一時四十分

七月六日 日 曇 起床五時三十分

連日の鹿島練習で皆疲れ起床おくれる
就床十時四十分

七月八日 火 曇 起床五時三十分

鹿島練習白熱化す
就床十時四十分

七月十日 木 曇後雨 起床五時三十分

鹿島練習 農協階上 起床十時五十分

七月十三日 日 曇 起床五時三十分

午後十時より予算總會を行う

一・理事より祭典入用物品の報告あり

二・祭典予算は額を發表せず 見積金不確定の為

三・祭典會計と屋台會計を一本にする事に決定す

従来は別個に扱われておつたが意味なく今は祭典全除金

の何分かを屋台積立金として残す事にして之れを認める

協議イ・夜宮 鹿島打込時間 九時三十分打込む事に決定す

ロ・祭典運営方法 女子との關係に就いて

一・女子は夜宮に資■か有つたら幻燈を行う

二・農協のスピーカーを利用し村民の慰安を行う(レコード)

いづれも夜宮 当日は料理 屋台の協力を以て

祭典總會には出席せず運営は従前通りと決定す

(中略)

祭典当日は御輿(大)か出ないので 出の鹿島は打たずすぐ

屋台を出す事に決る

終了十二時 就床十二時十分

七月十四日 月 曇俄雨あり 起床六時

午前七時集合 祭典の準備を行う

午後四時半頃準備終了し解散

夜宮總會 午後七時より開催す

(中略)

協議

当由鹿島おどり回数 三回(会場前、出、収メ)となる

八時半より酒宴に移る

明日屋台責任者は団長に決る 明日集合 午前七時と決す

鹿島打込(宿前) 九時四十分 鹿島終了後再び酒宴を開き十一時閉会す

閉会后二次会に移る 就床十二時

夜宮に於て女子は神社境内にて幻燈を行った

七月十五日

火

曇雨あり

起床六時

祭典当日 午前七時集合 準備をなす

九時十五分より 祭典總會開催す

団長副団長の挨拶あり

報告

本日鹿島 三回（宿前、出、収め）

屋台 十時に出す予定 入りは芝居の關係上四時—四時半の門にす
る

明日八拂八時頃より行う事にする 合宿舍

団員明日集合 午前七時半と決る

酒宴に移り

鹿島打込（宿前） 十時三十分

出の鹿島（神社） ■■■を■■■屋台を出す

途中 晝食 午後一時集合

屋台入れ 四時十分

収め 鹿島打込 四時三十分 解散 五時十分

懸念された天候も我々の意気で保つ

めでたく祭典当日を終了す

就床十二時

七月十六日

水

晴

起床 六時五分

午前七時三十分集合 準備をなし

八拂 九時 出発

終了後

午後三時より

祭典決算總會を行う

（中略）

三．夜宮祭及当日の祭典の反省を行う

（後略）

七月十七日

木

晴

起床六時

午前七時三十分集合 片付けを行う

十時頃終了し 休憩の後 十時四十分解散し

昭和二十七年祭典のすべてを終る

就床十一時

九月十五日

月

曇

起床五時四十分

午後八時三十分より役員会を行う

（中略）

一．会場増築準備貯金の件（将来の活動に備へ）

維持費より貳萬円を一ケ年定期貯金にする事に決る

一．祭典用準備金を壹萬円 一般会計内に含む事にする

（中略）

一．屋台（会場）にコールトンを塗る事にする

（後略）

昭和二八（一九五三）年

六月十七日 晴 水 起床五時

役員会 開始九時

一・祭典の件

一万円祭典費用の使用方法

提灯三十五個(山車用)

購入と決定

太鼓 一ヶ(鹿島打込用)

(後略)

六月二十一日 雨後曇 日 起床七時

今晚よりシヤギリ 太鼓の練習を始める

八時三十分より 十時まで 練習は今月中続行

其の他なし

就床十一時

六月二十五日 晴後曇 木 起床五時

定期總會 開始九時

一・祭典の件

部落の会合内容を団長より発表有り

1. 大祭とす(輿は出す事とす 検査の結果は後日報告)

2. 揃衣は新調せず 手拭を遣る

3. 余キヨウ 細部は部落、中、青 三者の会合により決定とす

(中略)

一・山車ダシの件

本年の例年通り出す事とす

一・予算の件

役員一任とす

一・鹿島踊の件

合宿舎長よりの発表

1. 鹿島踊の練習 七月二日 午後八時より

2. 役付け 三役 岩本博明

太鼓 広井通保

上の句 鈴木賢策、広井竜男、山室眞一郎、岩本耕作

3. 八拂 合宿舎員を主体とし退舎された方に協力を願ふ

(中略)

一・鹿島用太鼓一ヶ購入の件

四千九百円程度 購入と決定

(後略)

七月二日 曇 木 起床五時

今晚より鹿島踊の練習を開始する

今年も祭典が近く成った

七月三日 役員会 午後九時

(前略)

一・祭典予算の件

急を要するものを審議する

1. 色紙 ビニール

2. 菓子 ドウコ 四 | 3 : 5 0 0

3. ウチワ 六〇枚

4. 酒 四斗

5. サイダー 二ダース

(後略)

七月七日

雨

火

起床八時

(前略)

鹿島踊の練習 白熱化?する

就床十二時

七月十三日

晴

日

起床五時三十分

鹿島練習後 總會

總會 開始午後十時

一. 祭典予算の件

種々細部にわたり審議

(役員会及び總會に於ける予算は前年度祭典を

基調とする)

一. 明十四日祭典準備作業人員割当

一. 其他

終了十二時

就床十二時三十分

(以上)